

学術情報処理センターだより (3)

モバイルPC

モバイル (mobile) とは、移動可能なものの意味である。1960 年代まで、コンピュータとは、汎用機に代表される巨大で高価なソロバンであり、モバイルとは縁の無い代物だった。1960 年代の終り、ソロバンではない、文房具としてのコンピュータという概念が生まれ、Alan Kay は持ち運びできる知的情報文具の夢を描いた。ラップトップ (lap top、膝の上) という名の、デスクトップ (desk top、机上) でないコンピュータが現れたのは 1980 年代後半であった。しかし、それは高価で、膝に載せるには重たかった。

さて、今やノート型モバイル PC は大はやりである。電車や飛行機の中で、モバイル PC を使っている人を見るのは珍しくなくなった。モバイル PC を出張の必須アイテムとしている人も多い。重量も 2Kg を割り、価格も下がり、省スペースにもなるので、モバイル PC を持つ学生も多くなるだろう。

学術情報処理センターでは、教職員及び学生が個人として持ち歩くモバイル PC で大学のネットワークを利用できるための準備を進めている。学内の教室、セミナー室、更に附属図書館などの公共空間に情報コンセントが設置されるだけでなく、無線でのネットワークアクセスが可能となる。既に、附属図書館や各学部会議室でネットワークが利用できる環境が整い、年度末には全学で利用可能となる。Opengate という認証用ソフトウェアも開発済である。年度末には「どこでもネットワーク」環境が完成する。

学生のほぼ全員がモバイル PC を持ち、ネットワーク利用をするようになった場合の教育はどうなるだろうか。情報リテラシ教育は大きな変更を余儀なくされるだろう。専門教育もコンピュータ利用を前提として大きく変容するだろう。

もたもた考えているうちに、現実に追い抜かれてしまう。

副センター長 只木進一